

■田老地区復興まちづくり計画（素案）内覧会等の報告

（１）内覧会の概況

- ・ 日 時：1 月 14 日～17 日
- ・ 場 所：田老総合事務所 3 階会議室、檜内地区集会所
檜内仮設住宅談話室、グリーンピア体育館横集会所
- ・ 来場者数：合計 231 名

	1 月 14 日（土）	1 月 15 日（日）	1 月 16 日（月）	1 月 17 日（火）
田老総合事務所	19 名	40 名	23 名	23 名
グリーンピア体育館横集会所		60 名		31 名
檜内地区集会所	11 名		1 名	
檜内仮設住宅談話室			23 名	

・ 会場の様子：



（２）内覧会での意見等

■移転について

1	全戸移転の希望は、全くと言って良い程ないのかと思っていたが、そのような考えを持つ人もいるのだという事が今頃わかった。 やはり、分散してしまう、人が田老から離れてしまうことは否めない。しかし、私は、あまり悲観的にはなっていない。小さな集落を作ってうまくつなぎ合わせるための工夫を考えることがとにかく大切ではないだろうか？商業者がコミュニティバスを運営して町を繋いでいく（移動販売車）工夫をするのも一案だと思っている。自分達が動く、動かねばまらないしくみ？をあえてやっていくことも本当のまちづくりには必要だと思っている。（検討会メンバー）
2	高台住宅地の一部に古田があげられているが、古田と言っても小田代方面の古田もある。佐羽駅も近いので上手く利用すればいいのでは。小田代方面の居住も取り上げてもらいたい。 （40 歳代 男性 便り）
3	明治 29 年、昭和 8 年平成 23 年と 100 年に 3 回もの大津波があり、昭和 8 年以降、旧久保町長さんが日本の万里の長城とも言われる防路堤を建造して頂き、皆が安心して住める田老地区と

	思っていました。今回平成 23 年 3 月 11 日の津波は科学が進歩した時代の現実の出来事です。リアルな映像も残され今後の対策にも十二分に対応できると思います。まずは悲惨な映像を皆が一緒に見る事から始めれば、おのずから答えが出てくると思われます。今の復興の計画素案では、国道 45 号まち並みの山側は住宅ゾーンとなっていますが、今回の津波映像を何回も見たほうが良いと思われます。それによって 45 号街並み山側住宅ゾーンというのは、次に来る津波でも同じ目に会うと思います。自分の家族がどうなるか、自分の財産（家が）どうなるのか、おのずかと分ると思います。住宅ゾーン嵩上げ可住地計画となっていますが、嵩上げた部分に津波（水が）乗ったら、益々勢いづいて速い津波となると思われます。私は 3.11 時、魚市場側に職場がありましたが、一旦時化が来て、波が岸壁に乗り上げると勢いよく奥へ流れ込みます。津波となると想像を絶すると思われる。原子力発電を今まで過信して稼働してきたが間違った方向にすすめれば原子爆弾になりかねない。100 年に 3 回もの津波が現実に来ているのですよ。住宅ゾーンなどとんでもない。高台移転しかありません。宜しくお願い致します。 (60 歳代 男性 便り)
4	地球温暖化で海水面は上昇している時代に 4m の地盤嵩上げ、14m の防波堤等で津波災害から守られる保障はどこにもない。常に想定外の事を自然（台風、竜巻、津波）が教示している。地盤嵩上げにより、上下水道、道路、電柱等ライフラインの再整備に多額の投資が必要となり、もちろん、国、県の直轄投入となると思うが、この財源は税と公債で賄われるものであり、現在の国の財政事情は最悪の状況にある。子、孫のためにも善くないし、EU が財政赤字でどうなるか教示しているではないか。まちの再整備は、大雨による冠水、浸水地区の嵩上げを最小限にとどめるべきものと思う。情報伝達の確実性、食糧、水等の備蓄充実を図るべきだ。高台移転希望者は、すでに近隣に移転をはじめており、集団移転には反対である。田老の基盤目のまちは案内等もしやすく良かった。一日も早く家が建てられるよう希望する。 (70 歳代 男性 便り)
5	田老の越田地区の山間地を住宅造成地にして欲しいと思います。乙部の沢、青砂里沢の谷合いを山を切り崩して宅地にすれば、野原、乙部地区に住んでいた方々は多数、住居を考えるとされます。市の予算とか県の方針を前倒しして何とか特区で強行計画、実行して欲しいです。仮設に住めるのも 2 年で、あっという間に時間は過ぎます。県選出の国会議員を檜内地区の集会所に呼んで下さい。団体で要望すれば国も動くと思われます。交渉には大多数の人員が参加する方が誠意が伝わります。代表の方一人か二人でお願いしても効果がありません。今すぐ動いて下さい。我々には時間が無いのです。切に願います。 (60 歳代 男性 便り)
6	元、田老町は昭和 8 年の津波後、町民の生命と財産を守るために高台移転ではなく、防潮堤という方法を選択した。しかし、その防潮堤で街を守りきれなかった今回の震災では迷わずに高台移転を決断して欲しい。浸水した土地を嵩上げ等整備すれば「人々は又、海の近い場所に戻ってしまう悪い予感がします。これからは避難する津波防災ではなく、子供もお年寄りも国道を通過中の車も逃げなくても十分安全な高さ、高台移転を強く望みます。そしてその場所には住宅だけでなく、学校、病院、公共施設、金融機関、商店等町並みが出来るのが理想です。国道 45 号線も別ルート、三鉄駅も津波が来ない場所に！ (50 歳代 男性 便り)
7	旧田老市街地の再活用を、国道の山側を土盛りし住宅地とし、海側は波の影響を考えて土盛りはしないとの案は疑問に思う。狭い住宅候補地を更に狭くする事にもなり良くない。全部（土盛りをするなら）堤防の内側は行うべきである。浪の影響等、余り考慮する必要はない。津波

	に対しては、まず避難が第一である。当然、避難しやすい環境整備を第一にやるべき。日常的には住みやすい街作りの構想であろう従来の街並みは、野原、向山地区を除いて出来るだけ使えるようにしたい。当然従来、野原、向山地区に住んでいた人達の住居地は別に安全な高台を旧市街地に近い処に考えるべきである。具体的には和野地区当たりの造成が考えられる。古田、グリーンピアは離れすぎる感じがする。こうした検討の材料として立体的マップで位置を確認し、今後の津波に対応した防備は規模、今後の襲来を考えると余りに必要なく現実的な対応を早めに考える事が大事と思われます。 (70 歳代 男性)
8	嵩上げ計画のところに住んでいるが、行政に土地を買ってもらって、高台に移転したい。 (30 歳代 男性 榎内)
9	野原に住んでいたが、移転先は乙部よりも古田が良い。(勤務先の関係で) (30 歳代 男性 榎内)
11	私は元地に早く帰りたいと云うのが本当の気持ちですが、津波の事を考えますと、どうしても高台を希望します。子、孫の為にも出来るだけ早く進ませて下さい。宜しくお願いします。関係者の皆さんには心から感謝しています。ご苦労様です。 (60 歳代 女性 榎内)
12	高台移転を希望する(会社の土地が浸水区域内にある。) (60 歳代 男性 総合事務所)
13	公共施設に近い所? 集団移転地→古田が良い。 (60 歳代 女性 グリーンピア)
14	全戸移転(高台古田地区)を希望し、早く着手してほしいです。(60 歳代 女性 グリーンピア)
15	盛土をして住んでいい地区に入っているの(計画素案) 早く家を建てたいと思いましたが前に住んでいた地区の半分が非可住地になって移転してしまったら淋しくなる。皆さんと同じ所に移って、まとまって生活できる方が、学校や病院、商店等も近くなり、高齢の人も近くなり、高齢の人も多い事を考えると便利だと思う。コミュニティがバラバラになってしまったら田老の良い所もなくなってしまう。ただ、田老は漁業の町でもあり漁師にとって浜が見えない遠い所での生活は非常に不便な事だと思う。出来るだけ海に近い、便利な所を考えて下さい。分かれて移転するとしても町が二つ位なら許せるが、三つや四つに地区が分かれるのは反対したい。 (60 歳代 女性 グリーンピア)
16	平坦地には住みたくない。高台希望。宮古に近い所。 (70 歳代 男性 グリーンピア)
17	集団で高台移転にすることで、国の補助金等を利用できるようなのでそのようにしたい。 (50 歳代 女性 グリーンピア)
18	集団移転した方が補助金面で利用できるようなので高台移転を希望したい。 (50 歳代 女性 グリーンピア)
19	集団で移転、高台を希望します。国の補償金を希望します。 (60 歳代 女性 グリーンピア)
20	古田は池でだめ。小学校の裏が岩盤で良い。時間はかかるが水の便利が良い。(北高からも行ける道路もあれば良い) (60 歳代 男性 グリーンピア)
21	移転対象は一部移転に賛成です。全戸移転を実施しなかったとしても今回浸水しない箇所の住民も時間はかかっても、一部移転された地区への移住が必ず進んでいくと考えます。移転先は、非可住地となる野原、乙部、青砂里等地区の方々の意見が尊重された場所となることが望ましいと思います。素案の方針通り土地利用が実現し、より安全になった田老の街並みが1日でも早く戻ってきて欲しいと心から願っています。 (匿名 総合事務所)
22	子・孫の時代を考えて高台移転がいいと思います。 (50 歳代 男性 総合事務所)

23	全部移転に反対します。現在、自宅に住んでいるのに、移動するとなると、土地の購入、建物の建設費が必要になる。今までの場所で生活がしたい。これには補助がないとのことで納得できない。是非検討してほしい。一部移転についても、国道 45 号の山側だけでなく、反対側についても嵩上げしてほしい。できないのであれば、市に土地を買い上げてほしい。 (匿名 総合事務所)
24	私は、素案でいうところの条件付き可住地に該当する者です。でも、高台を希望します。人に貸す位土地を持つ人はいいいですが、自分が住むのに手一杯の土地しかありません。高台（乙部）に移動する時 100 坪→98 坪、300 坪→200～250 坪など、少ない土地を持つ者に対する配慮をお願いします。 (匿名 グリーンピア)
25	町中の背後地に移転は出来ないのか？（案の野原地区の移住地のように）（30 歳代 男性 便り）
26	現在、田老に住んでいます。老人 2 人暮らしです。宮古市でも構わないです。車もありませんので宮古市内か檜内が良いです。 (70 歳代 男性 便り)
27	被災者住宅全員の高台移転を希望します。高台移転の叶わぬ時は一部移転となる訳ですが、その時（場合）は、田老地区の臍となる中心を「どこ」に置くかが重要になると思います。その場所は、役場、銀行、診療所、郵便局、消防署、警察、商店街が隣接し、様々なイベントや集会ができる広場と施設があることが望ましいです。どことは言いませんが、ヨーロッパの小さな街をイメージして下さい。商店街を形成する場合、個々のお店が単独で商売をするのには弱い面が多々あるので、現在グリーンピアの仮設店舗にある組合を利用する。公共の施設を提供して下されば、権利金、賃貸条件は理解して頂け、商店の減少を防ぐことができる。国道 45 号線から山側（館が森）の嵩上げは反対です。もし、嵩上げが必要なら、国道から一本、西側にある道路からの嵩上げであれば、多少の理解は得られる。（？）基本的に浸水地は全て非可住が望ましい。浸水地での土地利用は通いで行う。小学校前にエレベーター付の駅。 (50 歳代 男性 グリーンピア)

■防潮堤について

1	野中地区の堤防を国道レベルまで整備（減災対策） (匿名 便り)
2	45 号線西側と住宅造りをする際に、防波堤の内側 12.5～7.0m の水路みたいなものをもうければ、浪が越えてきた際、いくらかの浪よけになるのではないかな。又、避難する人が、いくらかの時間をかせげるのではないかな。そうすれば、今回のような浪で家がつぶれるのもいくらかふせげるのではないかな。 (60 歳代 男性 グリーンピア)
3	津波は 10 年以内に必ず来る、30m で来るのに 14.7 メートルでは意味が無い。 (60 歳代 男性 グリーンピア)
4	津波後、自宅から海が見えるようになり、又地震や津波がきたらどうしようと思い、毎日生きた心地がしないので、堤防の工事が決まったのは少し安心です。（30 歳代 女性 総合事務所）
5	赤沼川を水が上がってきてそれがあふれたので、逆流しないような形にすると良い。 (女性 グリーンピア)

■現地での再建について

1	・全戸移転になると全く自力でやっていかなくてはならないという案は厳しいし、多分命がけで、現在の住宅に住まざるを得ないと思います。 ・嵩上げ地域にも入らないので川をはさんでいきなり回り一体が嵩上げになると圧迫感があつたり、雨が降ったりした時も怖いと思います。 ・今後、又、同じような災害があつたらと思うと、一步でも高い所とは思いますが、移動できない現状や家業（漁業）の事をもう少し考えなければならないと思いました。 (30 歳代 女性 総合事務所)
---	--

■浸水した地区の活用

1	国道 45 号の山側の嵩上げについて 嵩上げ地への住居希望者のみを一区画に集約し、その区画の必要面積のみを嵩上げすべきである。理由として、可住地全体を嵩上げしても、皆が元の場所へ自宅を再建するという根拠がないことが挙げられる。多額の費用や時間を費やして嵩上げたところで空き地ばかりであつては、税金の無駄である。財政面を考慮し、効率的に復興を行うためには、詳細なアンケートを実施し、居住希望者と必要面積、場所を精査した上で嵩上げすべきである。なお、嵩上げしなかった区画については、他の非可住地と同様の扱いにすべきである。 (40 歳代 男性 便り)
2	乙部、青砂里も盛土して住めるように。 (匿名 檜内)
3	二線堤と国道 45 号線の間に条件付き可住地とありますが、津波に耐えたとしても火災が発生すれば逃げ場がどこにもなくなってしまうので、そういう所にグループホーム等を設置するのは怖い気がします。他はよく練られていると感心しました。 (30 歳代 男性 グリーンピア)
4	45 号線山側の一部嵩上げに反対です。理由は以下の通り。 ・将来的（10 年～20 年後）田老地区を分裂させることになる。地域の崩壊です。 ・津波は確実に 50～100 年の間に発生している。今回と同じレベルの津波は来ないとの科学的根拠はないはず。絶対安全・安心を確保するには高台移転以外にない。 ・田老を担うであろう子供達（10 代、20 代）の意見を考慮していない。個人的には利害で素案が誘導されているような気がする。 (40 歳代 男性 総合事務所)
5	嵩上げ案に反対の意見書 ①4m～5m の嵩上げで、果たして今回の二の舞を防げるのか。 ②高台移転をして後世に安心して暮らしてもらいたい。地震でゆれても火の始末をするだけで避難しなくて良い安心感 ③100 年で 3 回も被災している。反省が見えない。 ④盛土をした場合、机上の計算で進めてほしくない。実際、畑に盛土した経験者として毎年 1m 位で 5～6 年かかった。雪、雨、風など自然の力は図りしれないものがある。 (60 歳代 男性 総合事務所)
6	野原は公園のほうが良い。野中は水産加工団地や I.C. も近いので、生産施設がよい。(野原地区を三王を加えての観光拠点に) (30 歳代 男性 檜内)

■道路・交通について

1	・移転先は交通の便が良ければどこでもよい（本当は元いた家に住みたい） ・移転先にバス便を作ってほしい。 ・今は櫛内仮設で家賃はタダだけど交通費がかかる。（女性 櫛内）
2	国道の嵩上げについては賛成（匿名 グリーンピア）
3	第 2 回まちづくりにありましたが乙部の高台に集落ができる場合、45 号線からスムーズに帰宅できる道路も作って欲しい。（匿名 グリーンピア）
4	田老地区の今後予定される避難場所への堤防からの歩道橋の整備 国道を嵩上げし、3 重堤防の整備（30 歳代 男性 便り）

■施設について

1	インターチェンジの予定を中心に学校、企業など各分野の集約（インフラ整備も） 幼児施設を集約し（こども園など）利便が良い高台に移転 イベントなどが出来る野外公園を整備、年に数回アーティストなどのコンサートを開催 （30 歳代 便り）
2	・車がないから公共施設が近くにあれば助かる。 ・時間をつぶす場所（平坦地）も無い（バス時刻）（70 歳代 女性 グリーンピア）
3	津波記念館を津波がおこった時のモデルケースにみては。水に浮く建物、鉄骨の強度をためすなど。（避難経路を確実に確保した）モデルケースをふやし近未来を予想した感じはどうでしょうか？（何よりも安全第一であるとはおもいますが…）小学生に絵を描いてもらうなど） （30 歳代 男性 総合事務所）
4	・田老一中校舎 1 階は浸水した。学校はもっと安全な土地へ移転すべきではないか。孫の世代まで考えると、今の場所は不適切に思う。（50 歳代 女性 便り）

■住宅確保、形態、支援等について

1	・借地だが買い取ってもらうのは地主の意向によると思うので、どうなるか考えて欲しい。 ・移転先は高い所が良い。 ・公営（戸建）か自分で建てるか、どちらか（たぶん自分で建てる。その際、収入が無くローンが組めないが、利子補給分の支援はあるか）津波の際（支援金はもらえると思うが） （女性 グリーンピア）
2	・仮設住宅の入居できる期限が 2 年間であるのに対し、住宅再建できる時期が 5 年後ではどう住まいを確保すればよいか。 ・過去の災害をみれば仮設の期限は延長されているとはいっても借地に仮設を建てている所は、2 年契約なため、退居しなければならない。 ・借地の延長をお願いするといっても、それに応じなければ結果 2 年で退居になるのではない。 ・最初から 2 年間で、造成が出来る見込み無く、2 年を仮設入居期間とすることに問題があり、制度がそうなら改定して最初から入居できる期間を延長すべきである。（匿名 総合事務所）
3	まちづくりが延びた場合、今の仮設住宅に住み続けられるのか、また民間の借り上げの場合など家賃をとられたり、住み続けられなくなることがあるのか教えてほしい。

	(30 歳代 男性 檜内)
4	1、津波被害を受けた市有地の扱い（買取する場合の金額等）の具体的な提示を早めに示して欲しい。 2、高台移転の候補地は出来るだけ限定し、その利便性等説明し選択しやすいように早期に示して欲しい。移転の際の個人負担や移転場所の周辺の状況等具体的に示した上で選択させて欲しい。 3、移転地の住宅の型、間取り等具体的に示して入りたい住宅か否かを示して欲しい。又、個人住宅とする場合の面積、負担額等が早く示して欲しい。それにより、集合住宅（アパート型式）を選ぶか個人住宅をとするか判断したい。 4、集合住宅はゆとりのある間取りに設計し、個人負担が余りない金額であれば交通の便や環境を見て、是非入居したいかその具体的モデル等示して欲しい。 5、選択しやすい具体的な内容をモデル等を作って立体的に場所等を含めて示して欲しい。 (70 歳代 男性 檜内)
5	土地を売却したお金で、一時払いできる賃貸住宅がよい。(女性 檜内)
6	早く住宅地の確保願います。(70 歳代 女性 グリーンピア)
7	・住宅建設が H28 年度スタートはあまりにも遅すぎる。グリーンピア仮設住宅の床下はすでにくさりかけている物もあると聞いた。仮設に 2 年間入った後（H23 年、H24 年の後）H25 年から住宅完成（H28 から H29 年の間か？）までの間、我々はどこに居住する事になるのか。先が見えない。不安である。 (50 歳代 女性 便り)

■将来像、方針について

1	・広場を中心に商業地、店舗、その近くに（高齢者、体に障害のある者等）見守りが必要な人々が居住し、観光客が素通りではなく、広場に集う住民と会話や、買い物が楽しめるようなイメージの街づくりを希望する。 ・全国の街作りの良い手本となるようなコンパクトシティを目指して欲しい。 ・自家用車を持たない高齢者は、衣食を確保できる商業地に隣接する場所に居住する方が望ましい。居住地と商店街は同時進行で建設すべきと思う。 (50 歳代 女性 便り)
---	--

■避難場所について

1	今回の震災で避難する際に、裏の山に逃げたが、急斜面施設の擁壁が設置されており、やっと切れ間を見つけて山に避難しました。裏山に逃げやすいように、階段や切れ間を多くするなど対策をこの検討会の計画に追加してほしい。 ・新田の防災センターに万が一のため、物資を保管しておく。（布団、食料など） ・災害時の地区連携を強化（米どころには、米の農家に備蓄しておくなど、水も！（5,6 人でようやく 1 本のペットボトルで持ちこたえた） ・電気がなくてもいいように、手動のサイレンなど、音を出せるように。 ・拡声器を各地域に常備（連絡員、自治会長など） 声が出なかった。小さくて聞こえなかった。 ・トイレの検討（仮設トイレをすぐ設置できるように） (60 歳代 女性 総合事務所)
---	---

■検討の進め方・メンバーについて

1	田老地区全体のアンケートを早く取るべきだと思う。 何世帯が必要なのかわからないまま。 このままだと人口が田老からなくなってしまうのではないかと本当に心配です。
---	--

	防潮堤の形を変えない県に不満です。 (検討会メンバー)
2	まちづくりをすすめる上で、若い人（子供も含めて）の意見にも耳をかたむけてほしいと思います。小学生、中学生も真剣に話あえばすごい意見を言うこともあります。住みたくなる場所にするため、これから活躍するであろう若者の姿が、街づくりの話合いに見られるといいなと思います。私の考える街づくりは、田老をイベントの町、防災の町にすることです。田老地区は高台移転案と土台を上げる案があがっていると思います。どちらの案も取り入れて考えていければと思います。具体的には、球場のある所に広い空間が出来たのでそこに芝を植えてサッカー場やフットサル場にします。夏やゴールデンウィークには、音楽のライブイベントやお祭りが出来ると人も来ると思います。津波も怖いので防災タワーを何棟か建てます。壊れた田老の施設はそのままにしておき、津波の恐ろしさを伝えたり防災教育に役立てるといいと思います。（広島原爆ドームのようなものがあると、田老もアピールできるかなと思います。） (20 歳代 男性 便り)
3	住宅地は平面図ではなく立体図で示してほしい。 (男性 檜内)
4	1 月 13 日市に電話してスケジュールの土地区画整理事業の区域が荒谷、館ヶ森、川向となっているが、川向は 45 号 海側も入っているので（川向は行政区）「荒谷・館ヶ森土地区画整理事業」でよいのではないかと。修正してください。 いろいろな場所をあげているだけでなく、アンケートを取って多い場所に早く決めた方がよい。第 2 回まちづくりの会の会場は檜内集会場ではなく仮設住宅の集会施設にしてほしい。 (男性 檜内)
5	早い復興を望みますが、一戸一戸それぞれの生活状況をふまえた意見や要望などの聞き取り調査を重点にしながら進めて欲しいです。4～5 年後の事となると特に老後の事、老いる事の不安がいっぱいなのです。読めない人、書けない人、たくさんいますのでやさしい説明、これからの相談を良く聞きいれながら進めていって欲しいと思います。（匿名 グリーンピア）
6	・元の町が奥にいくような感じ。 ・土地利用はみんなで考えるべき！漁業関係、農業関係、商業関係その他もろもろの（働いて行きたい）人での話し合いの場を！ (30 歳代 女性 グリーンピア)
7	今回のこの会（計画）を見て思っているより自分の考えている通りの案であった事が安心しました。将来はどのような田老になるか今から楽しみです。自分は今年で 20 才を迎えるので、この地区を積極的に引っ張っていくような強い意志を持ってこれからも田老を愛して住み続けていきたいとこの会を通じて考えさせられました。 (20 歳代 女性 グリーンピア)
8	若者にとって環境の良い町とはどういう町か？検討委員は、欠席時はせめて代理を立てるべきだ。意見を言いたい人はたくさんいる。まちづくり便りに無報酬でやっているという文章があったが、それは当たり前。行政、市民全員が同じ方向を向いて議論すべきである。また、検討委員は各団体で意見集約をして望むべき。 (男性 グリーンピア)
9	まちづくり委員会の会議進行がなされていない。個々の単なる意見発表会にしか見えません。出された意見に対し、何故ディスカッションを行わないのでしょうか？ (40 歳代 男性 グリーンピア)
10	まちづくりは住民主体となっているが、国道 45 号線堺に山側、堤防側となぜ分けたのか検討委員の説明、市の意見で委員会では話題にも出なかった。今のままのまちづくりでは古里田老は限界集落化し高齢者が亡くなれば…消える。今のうちに若者の住むまちづくりをソフト面を

	しっかりつくって欲しい。60 歳 70 歳の人間がこれからのまちづくりの為に検討することは論外だ。もう少し、真剣に古里をつくる考えになって欲しい。田老地区の責任者は誰なのか。地域協議会等がもう少し活動して欲しい。働く所がなければ若者は住まない。奥尻島、小千谷の経緯をもっと検証し田老をつくって欲しい。 (70 歳代 男性 グリーンピア)
11	早く進んで欲しい (80 歳代 女性 グリーンピア)
12	高齢者なので早くお願いしたい(夫を家に連れて帰りたい) (70 歳代 女性 グリーンピア)
13	・過去のアンケートやまちづくり検討会を傍聴して思ったが、嵩上げた土地に住みたいと思う人が多いとは思えない。嵩上げたけど誰も住んでない…ということにならないように事前の調査を念入りに行い居住希望者を一区画に集めて一部のみ嵩上げにすべき。 ・田老駅の場合は本当に現位置でよいのか？町の中心地へ移転すべきではないか。利用者は高齢者が多いため。 ・検討会の進行について。意見を集約する人がいないので、同じ話がいろんな人から何度も出てきたり、話があちこちに飛んだりしている。出された意見が吟味されていない。もっと議論をまとめてほしい。 (30 歳代 女性 グリーンピア)
14	(現状の暮らしについて) 店舗兼住宅の川向の家が流失。現在は祖父の家(堀丁)に暮らしているが、被災者向けの情報や支援物資の情報もない。子供達も遊べる場所もなく可哀想だ。早く町づくり計画を進めてください。 (60 歳代 女性 総合事務所)
15	若い年代の意見を反映する必要がある。検討会を傍聴したいので、休みの日にやってほしい。 (30 歳代 男性 檜内)
16	検討会に若い人達が出席しやすいようにして欲しい(休日開催) (30 歳代 男性 便り)

■避難場所について

1	・災害時に使用できる自動販売機を宮古市の各地に作ってほしいです。 ・大船渡市のように「みやこ災害エフエム」で日々放送している内容を文章にしてホームページに載せて頂きたいです。 (40 歳代 女性 グリーンピア)
2	避難場所整備事業については、検討委員会でもあまり突っ込んだ話し合いはなかった。「津波防災の町」を宣言しながら 200 名近い犠牲者を出した田老は、何の検証もなく、避難タワーやブリッジなどの整備を進め、避難所に至っては適切に配置するとしている。田老の地形では避難タワーやブリッジなどより、防災教育と避難所の適性配置・設備の充実を図る必要がある。避難場所は田老簡易水道のある山を造成して、食料等の備蓄庫と通信機能・トイレを備えた津波記念館等の建物を整備し避難場所とするべきである。スケジュール表を見ると事業着手が一年後となっているが、余震等が心配される今般、現在の避難所の状況を検証・調査して、復旧あるいは避難場所の変更に早急に取り組んでいただきたい。 (検討会メンバー)

■ソフト事業について

1	産業活性化事業(水産業、観光業等)については取り組みがおそい。失業保険給付も終わり、雇用も発生しない地域では人口の流出が目に見えており、田老を過疎化させないためにも、雇用対策として産業活性化事業(水産業)の早急な取り組みが必要である。幸い田老の野原地区は非可住地区で、産業ゾーン(水産加工施設)で素案が示されており、水産加工施設を誘致出来る様、他の震災地域よりも早く基盤整備にとりかからなければ水産加工施設誘致は後手後手となり過疎が進み、限界集落化が加速する。(60 才以上の人口 46.7%、H22 年国勢調査より)。
---	---

	このままでは復興を待たずして限界集落化する。素案スケジュールでは平成 25 年からの実践・活動となっているが、遅い、スピード感をもって今すぐにでも基盤整備に取り組むべきである。
--	---

(検討会メンバー)